

氏名 村上 拓
授与した学位 博士
専攻分野の名称 医学
学位授与番号 博 甲第 6963 号
学位授与の日付 2024 年 3 月 25 日
学位授与の要件 医歯薬学総合研究科 社会環境生命科学専攻
(学位規則第 4 条第 1 項該当)

学位論文題目 The effectiveness of simulation-based education combined with peer-assisted learning on clinical performance of first-year medical residents: a case-control study
(一年目研修医に対するシミュレーション教育とピア・ラーニング法の組み合わせが臨床業務成績に与える効果について： ケースコントロール研究での検討)

論文審査委員 教授 中尾篤典 教授 木股敬裕 准教授 佐藤 勝

学位論文内容の要旨

医学教育において Simulation 教育と Peer-Assisted Learning(PAL)の併用は、短期的な学習効果が高いとされる。本研究では、これらの教育手法の併用の、一年目研修医の救急業務における中期的な効果を検討した。

研修医を Simulation 群、Lecture 群、Control 群に分け、Simulation 群と Lecture 群に PAL 形式で教育介入を行った。介入前後の筆記試験および、初回から 3 回目までの救急業務時の自己評価と他者評価で、各群の学力と救急業績を比較検討した。

3 年間で 75 名を対象とした。筆記試験では、Simulation 群と Lecture 群が Control 群よりも成績向上を認めた。救急業績では、自己評価で 3 群全ての、他者評価で Simulation 群と Lecture 群のみの成績向上を認めた。また、Simulation 群が Lecture 群よりも事前学習が役立ったと答えた。

以上より Simulation 教育と PAL の併用は、研修医の学力、救急業務、満足度の向上に有用であると結論付けた。

論文審査結果の要旨

医学教育において Simulation 教育と Peer Assisted Learning (PAL) の併用は、短期的な学習効果があるとされているが、村上らは、これら Simulation 教育と、PAL の併用の効果を岡山大学病院の初期研修医 (2016 年から 2018 年) を対象に検討した。3 年間で 75 名の研修医を対象にし、Simulation 群、Lecture 群、Control 群にわけ、Simulation 群と Lecture 群に PAL 形式で教育介入を行った。結果、Simulation 群と Lecture 群は、Control 群よりも成績向上がみられ、他者の客観的評価でも Simulation 群と Lecture 群に成績向上がみられた。これらのことから、Simulation 教育と PAL の併用は、研修医の学力、救急業務、満足度の向上に有用であり、長期的な効果として救急業務パフォーマンスの向上にもつながることがわかった。岡山大学は研修制度、シミュレーション教育を比較的早期に導入しており、研究を行った当時、申請者も岡山大学病院の研修医であったことから、自らが経験する教育システムほどのくらい効果があるのを知りたかった、という研究動機は明確であった。研究の Limitation は、学習の「継続性」と「反復性」に乏しく、事前学習から実際の救急業務までの期間が一致していないことを挙げた。また、高度救命救急センターを有する大学病院での研修であり、対応する疾患の重症度や緊急度が高く、単施設であることからサンプルの偏りについても限界があることを説明した。

本研究は、Simulation 教育に加え、PAL といういわゆる「屋根瓦式の教育システム」を併用することの教育効果を立証し、岡山大学病院が現在取り入れている研修システムを自己評価した大切な研究であり、医学教育において大きな貢献をしたことは間違いない。申請者は、本成果を踏まえ、今後も研究を継続していきたい、との意気込みを述べ、優れた医学者であると同時に、良き相談相手である教育者としての将来性も期待できる。

よって、本研究者は博士 (医学) の学位を得る資格があると認める。